

目次／第69回企画展 魅力的な八本脚の生きもの クモ 表紙／いわて自然ノート 早池峰山の植物をニホンジカから守れるかp.2／展覧会案内 第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」 p.4-5／充実した博物館活動 平成29年度岩手県立博物館入館者数5万人突破 合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うときin釜石市」 p.6／活動レポート チャレンジ!はくぶつかん 活動レポート 博学連携プロジェクト～平館高等学校とのハンズオン資料の製作～p.7／インフォメーションp.8

第69回企画展

魅力的な八本脚の生きもの クモ

平成30年6月2日(土)～8月19日(日)



ネコハエトリ (ハエトリグモ科)

後からそっと近づくと、ハエトリグモはこちらにくると向き直って見つめてきます。愛らしい瞳と美しい毛並は、見る者を惹きつけて止みません。

桜の花が散るころから、ネコハエトリのオスたちが威嚇し合う姿を見かけるようになります。お互いに脚を腕のように振り上げ、近づいて打ち合い、ときには組み合う熱戦に、つい見入ってしまいます。

日本には、このような身近なクモたちに親しみを感じる文化がありました。

## ■いわて自然ノート

はやちねさん

# 早池峰山の植物をニホンジカから守れるか

専門学芸員 鈴木まほろ

### ■岩手県のシカ

40年ほど前、東北地方でニホンジカがいるのは五葉山と金華山の周辺に限られていました。当館が開館した1980年には、五葉山のシカはまだ「北限のホンシュウジカ」として保護されており、展示パネルにもそのように書かれていました。ところが今や、シカは東北6県の全てに生息しています。

シカの個体数が急激に増え、周辺市町村で農林業被害が目立つようになったのは1980年代です。急増の原因は、狩猟の減少と少雪による死亡率の低下であると言われていています。

問題が顕在化してからも、行政が保護から捕獲強化へと方針を転換するまでには多くの年月を要しました。この間に、五葉山のシカはまず三陸沿岸南部に進出し、2000年代には遠野市北部や宮古市、2010年代には県境を超えて青森県にまで分布を広げました。現在、県はシカの個体数管理に力を入れており、年間約1万頭を捕獲していますが、農林業被害額はまだ2億円を下りません。

### ■シカの増加と植生の変化

シカは草食動物で、カモシカと同じく草や木の葉を食べます。しかし単独生活をするカモシカと異なり、大きな群れで生活するため、密度の高い状態が続くと植物を食べ尽くしてしまいます。そのため、農林業だけでなく自然植生にも大きな影響を与えます。

シカにも食べ物の好みがあり、選択の余地がある場合には、好んで食べる植物＝嗜好種と、ほとんど食べない植物＝忌避種があります。嗜好種にはエゾアジサイ・ノリウツギ・オオカメノキ・アザミ類などがあり、忌避種にはマルバダケブキや毒のあるツツジ類などがあります。



ハヤチネウスユキソウ

シカの密度が高くなると、森の中ではまず嗜好種が食べられて消失し、一時的に忌避種が増えて地面を覆うこともあります。するとシカは忌避種も食べるようになり、やがて林床植生の消失（裸地化）が起こります。シカの群れが植生に与える影響はとて大きく、変化は急速に進みます。ひどい場合には、2～3年のうちに景色が変わってしまうほどです。

影響は植生だけにとどまりません。植物が消えると、植物を食べる虫が消え、次にその虫を食べる虫や鳥が消えます。また、地面を覆っていた植生がなくなることで、大雨による土壌の流出が発生しやすくなります。ニホンジカの増えすぎは、地域の生態系の崩壊を意味するのです。

### ■早池峰山のシカ食痕調査

早池峰山は岩手県の中央部、遠野市・花巻市の北部に位置し、東北地方を代表する名峰の一つです。シンボルでもあるハヤチネウスユキソウをはじめとする美しい高山植物を見るために、年間2万人もの登山客が訪れます。

早池峰山麓では、2010年を過ぎた頃から頻りにシカの鳴き声が聞かれ、姿が目撃されるようになりました。早池峰山の貴重な高山植物が食べられてしまうのでは、という危惧の声を受けて、県や東北森林管理局によるシカの調査が始まりました。

早池峰山の環境保全や登山マナー啓発等の活動に協力する「早池峰グリーンボランティアの会」の方々から、早池峰山の登山口周辺でシカの食害が増えているので調査をしたい、という相談を私が受けたのは2014年のことです。

この夏の調査では、県道や登山道の周りに生える様々な植物に大型草食獣による食痕が認められました。この地域にはシカの他にカモシカも生息しており、両者の食痕は見た目では区別できませんが、シカの目撃が急増していることから、多くの食痕はシカによるものと推測できます。シカの影響が決して小さくないことが分かったため、翌2015年夏から、小田越登山道で早池峰グリーンボランティアの有志の方々と一緒に毎年モニタリング

を行うことにしました。

### ■モニタリングの方法

モニタリングは2つの方法で行っています。1つは、登山道沿いを歩きながら食痕のある植物の種名と被食頻度を記録する方法です。これは初期の変化を捉えるのに有効です。もう1つは、登山口から山頂までの間に定点を5つ設け、決まった線に沿って1m間隔で50cm四方の地表の写真を撮影する方法です。これは裸地化が進行した場合に変化を量的に記述するのに有効です。

### ■モニタリングの結果

2014年の予備調査では、食痕は主としてハリブキやヤマソテツなど嗜好種に多く見られましたが、その後は他の植物にも食痕が増え、嗜好種は早くも姿が消えつつあります。

2015年からは、標高1,400m付近の森林限界より上にある草原でもシカの足跡や食痕が見つかりました。さらに2016年以降は、山頂直下の「御田植場おたうえば」と呼ばれるお花畑において、シカが好むセリ科の植物に食痕が見つかりました。被食量としては多くなく、一時的に通過したシカが食べたものと推測されます。

### ■かわらのぼろ河原坊登山道の変化

2016年春、河原坊登山道の上部が大雨のため崩壊し、通行止めとなりました。その後、登山口付近でシカの食痕が急増しているとの情報があり、2016年夏から許可を得て河原坊登山道でもモニタリングを始めました。

その結果、登山口から中腹までの間で50種以上の植物に食痕が見つかりました。また、下部の森林では急速に裸地化が進んでいることが分かりました。これ

は、この付近でシカの密度が急激に増加したことを示しています。早池峰山の森林内には絶滅危惧植物が多数生育しており、影響が心配されます。

### ■高山植物への影響

では、高山植物への影響はどうか。早池峰山の高山植物は、世界的に見ても極めて貴重です。地球上で早池峰山にしか生育しない固有種は、ハヤチネウスユキソウ・ヒメコザクラ・ナンブトウウチソウ・ナンブトラノオの4種と、ミヤマヤマブキショウマの1変種があり、もし早池峰山から消えると、地球上から永久に失われることとなります。また、ナンブイヌナズナ・トチナイソウ・ナンブソモソモなど、本州では早池峰山で見られない種もあります。

単に稀少というだけでなく、地域にとっては大切な観光資源でもあるこれらの植物が消滅の危機にさらされているということは、きわめて重大な問題です。

幸い、これまでの私達の調査では、高山植物のうち特に稀少な種には、シカの食痕は見つかっていません。ただし、私達は登山道周辺のわずかな部分を調べているだけなので、安心はできません。東北森林管理局が2011年に早池峰山周辺で大規模に行った調査では、固有種のナンブトウウチソウに食痕が発見されています。時間の問題と考えるべきでしょう。

中には、個体数が極めて少なく、わずかな食害が回復不能なダメージになりかねない植物もあります。食害が起きてから対策を考えるのではなく、予防的に手を打っていく必要があります。

### ■早池峰山のシカ対策

早池峰山の植物を守るには、どのような対策をすれば良いのでしょうか。



シカによる食痕

一つは、早池峰山周辺におけるシカの捕獲努力を強めることです。現在も周辺市町村において、林道の除雪やシカの一斉捕獲日の設定など、捕獲を強化するための取り組みが行われていますが、残念ながらシカが減っている様子はありません。

東北森林管理局はこれまでに、GPSを装着したシカのリアルタイム追跡や自動撮影等を行い、シカの越冬地と移動ルートに関する情報を蓄積しつつあります。こうしたデータに基づき、より効果的に捕獲を行うことが必要です。

また予防策として、特に稀少な植物の周りには防鹿柵を設置することも考えなければなりません。国内で高山帯に防鹿柵を設置している事例はまだ少なく、試行錯誤も予想されますが、食べられてから対策を始めるのでは手遅れになる可能性があります。柵は景観を損ねるという声もありますが、上手に場所を選べば、景観を大きく損ねずに設置することも可能でしょう。

今やらないと間に合わないという焦りを感じつつ、対策の実現に向けてなんとか力を尽くしたいと考えています。



■展覧会案内

# 第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」

会期：平成30年6月2日（土）～平成30年8月19日（日） 会場：特別展示室

クモは誰でも知っている身近な生きものですが、残念ながら苦手を感じる人が多いようです。しかし、昆虫とは異なる進化を遂げた独特な体や生態、各地に伝わる民話や不思議な伝承など、自然史と文化史の両面で大変興味深い生きものです。本展覧会では、わかればきっと好きになる、クモの魅力をお伝えします。

## 第1章 蜘蛛の文化史

この章では、人がクモをどのように捉えてきたのか、文化財や民話、伝承等をもとに読み解きます。

### ■クモは親しい生きもの

弥生時代に作られた銅鐸には、カマキリなどと共にクモの絵が描かれたものがあります。このころクモは害虫を食べる益虫として、身近な存在だったようです。

クモは遊び相手でもありました。クモに「相撲」を取らせる遊びがかつて全国で見られ、現在も盛んな地域があります。

また、クモは刀の鐸や根付など、工芸品の意匠としても人気がありました。

### ■クモは吉兆？ 凶兆？

我が背子が 来べき夕なり 笹が根の  
蜘蛛の行い 是夕著しも

日本書紀に記されたこの歌では、「蜘蛛の行い（網を張る様子）」を見て、「背子（夫、恋しい人）」の訪れを予感しています。このように、クモはかつて吉兆として歓迎される生きものでした。

その一方で、クモが妖怪として退治される土蜘蛛草子などの話もあり、疎まれる存在でもありました。

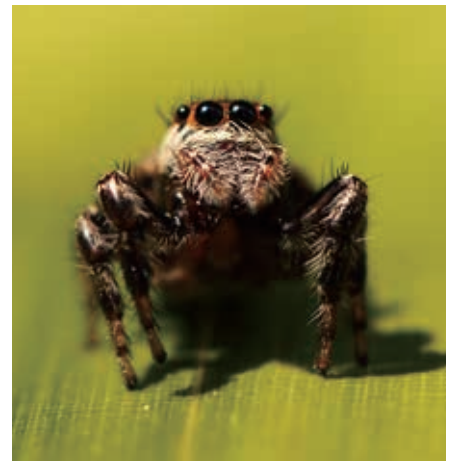
この相反する心象を反映するように、日本の各地には朝グモを吉、夜グモを凶とする言い伝えがあります。しかし、東北や九州では夜のクモでも吉とする場合があり、特に岩手には、クモとの間に生まれた子を大事に育てる民話など、クモへの親しみを感じさせる伝承があります。



オス同士の威嚇。この後組み合って、まさに「相撲」のような熟戦を繰り広げます。



アシナガサragモのドーム網



8個の眼を持つクモにはどのように見えているのでしょうか



左上：くもの巣透鐸（当館蔵）  
左下：精巧な蜘蛛の細工（拡大写真）

## 第2章～第4章 クモの生物学

クモは昆虫ではないと小学校で習います。ではどのように違っているのでしょうか。これらの章では、昆虫と比較しながら、クモの体の特徴や狩りの様子、繁殖と子育てなど驚きの生態を紹介します。

### ■クモが作る多様な網

クモは種によってさまざまな形の網を作って狩りをします。垂直な円網、不規則に糸をかけた網、数本の糸だけの網などを写真や標本で紹介します。

### ■網を張らないクモ

半数のクモは網で獲物を待たず、歩き

回って餌を探します。例えばハエトリグモ科のクモは、獲物を見つけると気づかれないようにそっと近づき、素早くジャンプして捕らえます。その瞬間はまさに目にも止まらない速さです。

### ■驚異的な眼

日中に歩き回るクモは良い視力を持ちます。ハエトリグモは真下と真後ろ以外、ほぼ全範囲を見ることができます。

展覧会では約200倍に拡大したハエトリグモの大型模型を展示します。内側からクモの眼を通して外を見られるので、広い視野を体験することができます。



洞穴の中で交尾するイワテホラヒメグモ



子グモを背負うコモリグモ



松葉に擬態するオナガグモ

### ■心配無用な毒

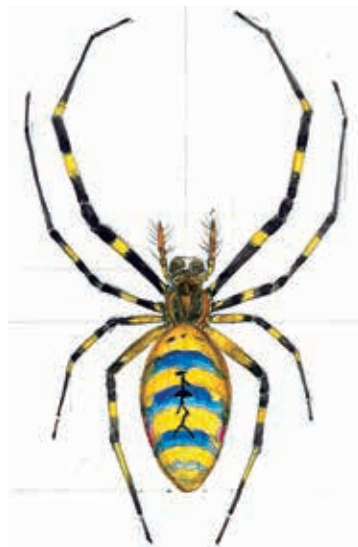
クモに咬みつかれた虫は、毒によってすぐに動かなくなります。毒と言っても、人に害を与えるクモは世界でもごくわずかで、身近なところではカバキコマチグモが、ハチに刺されたような痛みをもたらす程度です。昆虫には毒が効くのに、なぜ人には効かないのか解説します。

### ■クモは交尾をしない？

昆虫は、腹部末端の生殖器で直接交尾をします。一方、クモのオスは一度体外に精液を出し、それを口元から伸びる触肢しよくで吸い込みメスに受け渡す「交尾」を行います。このようなちょっと変わった繁殖行動や産卵の様子、子グモが空を飛ぶ旅立ちなどを紹介します。



カタオカハエトリ*Euophrys kataokai* は和名・学名とも片岡氏に献名されました



片岡氏によるジョロウグモの彩色スケッチ

## 第5章 岩手の多様なクモ

体がキラキラしているクモや、姿がアリや松葉そっくりのものなど、岩手には特徴あるクモが数多く生息しています。展覧会では100種以上のクモについて、どのような環境で見られるのか、生態写真や標本で紹介します。

### 第6章 クモを調べる

#### ■岩手のクモ学者 片岡佐太郎

片岡佐太郎氏は、カバキコマチグモの子が親を食べることを発見して初報告しました。また、1960年代には、県内に生息するクモ約200種の分布調査を行いました。当館に寄贈された800件を超える調査記録の中から、細かな毛まで丁寧に描きこまれた彩色スケッチを展示します。

### ■クモ調査はまだこれから

お隣の秋田県ではクモが約500種確認されていますが、本県ではまだ350種ほど。少なくともまだ100種以上は見つかる可能性があります。当館の調査では毎年県内初記録のクモが見つかっており、未記載種（いわゆる新種）と思われるものも見ついています。

クモは、詳しい生態がわかっていない種が多く、まだまだ多くの発見が期待できる魅力的な生きものです。展覧会で興味を持たれたら、ぜひ身近なクモに目を向けていただければと思います。

(学芸調査員 渡辺修二)

### 《関連事業》

#### 日曜講座

「わかればきっと好きになる・クモ」

6月10日(日) 13:30~15:00

講師：渡辺修二(当館学芸員)

「あなたもハエトリグモを探したくなる!」

6月24日(日) 13:30~15:00

講師：須黒達巳氏

(慶應義塾幼稚舎教諭)

#### 自然観察会

「クモを見つけよう! in 小鹿公園」

於、盛岡市三ツ割 小鹿公園

7月1日(日) 10:00~15:00

要予約、現地集合・解散

#### ミニ観察会 11:00~12:00

「クモを見つけよう! in 岩手県博」

6月17日(日)、7月28日(土)、

7月30日(月・臨時開館)、

8月11日(土)、8月18日(土)

#### 一般向け展示解説会 14:30~15:30

6月17日(日)、7月14日(土)、

8月18日(土)

#### 子ども向け展示解説会 10:15~10:45

7月28日(土)、

7月30日(月・臨時開館)、

8月11日(土)



## ■充実した博物館活動

## 平成29年度岩手県立博物館入館者数5万人突破

館長 高橋 廣至



平成29年度の県立博物館の入館者数は50,391人で、平成17年度以来の5万人超えを達成することができました。過去にも5万人を超える入館者はありましたが、その要因としては、12年前の「義経展」のような年度内に一つ注目される展覧会があったからです。昨年度の展示会を振り返りますと、「絵画でたどる19世紀の風景」、「遮光器土偶の世界」、「中世の南部氏と糠部」、「ひとのかたち」・「海を超えた絆」・「明日につながる気仙のたからもの」の全ての展示会で1万人を超えることができました。年間を通して多くの皆様に足を運んでいただきましたことに心から感謝申し上げます。

昨年度の展示会につきましては、「展覧会プロジェクトチーム」を立ち上げ、主担当のみならず、企画運営を職員が分担して当館総意の下に実施したことが大きな成功につながりました。また、常設展での展示替えの工夫や、トピック展として鳥や動物の剥製等の収蔵資料を年間通して公開したことも、ご家族連れの皆様の人気を集めたものと思います。

県立博物館には26万点以上の資料が保管されていますが、今後も数ある資料の中から魅力あるものを掘り起こし、テーマを設定し、トピック展などで公開してゆきたいと考えています。博物館では常に職員が様々なアイデアを出し合い、県民の皆様に喜ばれる展示や事業を考えております。県民の皆様からも博物館の企画や運営等につきまして、ご要望やご意見等をお寄せいただければ幸いです。

県立博物館には、「県民が多様で優れた芸術文化に親しむ機会と、開かれた博物館として、県民との積極的な交流を進めながら自主的な学習の場を提供する」という使命があります。今後とも、県民の皆様に愛され、親しまれ、身近に感じられる県立博物館であり続けるよう努めてまいります。

今年度も是非、多くの皆様においでいただきますようお願いいたします。お待ちしております。

## ■合同移動展

## 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うときin釜石市」

会期：平成30年2月16日（金）～2月18日（日）

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきました。平成20年度からは、岩手県埋蔵文化財センターとの合同展（岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展）という形態で実施され、さらに平成24年度からは（公財）岩手県文化振興事業団の4事業所（埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館）が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われています。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることから、埋蔵文化財センター・当館の2事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示しました。これにより、各事業所がどのような資料を対象として扱い、研究・公開を行っているのかといったことから、一般向けにどのような教育普及事業を行っているのかといったことまで伝えることができました。また、広く美しい釜石市民ホール（TETTO）という完成したばかりの会場で展示することができ、多くの来場者の方々に足を運んでいただいて、展示解説会の実施時にも混雑することなく多くの方々に会場内に案内することができました。

会 期：平成30年2月16日（金）～2月18日（日）3日間

会 場：釜石市民ホール TETTO ホールB

タイトル：『合同展～平成29年度岩手県立博物館移動展・第38回埋蔵文化財展』

来場者数：377人 【展示】展示総数 90点

展示内容：歴史、民俗、生物、地質の4部門からの展示物に加え、特別展示として岩手鈴子（アメリカ・アラバマ州バーミングハム公立図書館所蔵）、スマダニエル・ヘンドレン（複製・原資料：陸前高田市立気仙小学校蔵）を展示しました。

【関連事業】

1 展示解説会 2月18日（日）13：30～14：10 参加者25人



## ■活動レポート

## チャレンジ！はくぶつかん

学芸第三課 近藤 良子

当館では主として毎月第2、3土日（※詳細はHPをご覧ください）の開館時間、小学生を対象に「チャレンジ！はくぶつかん」を行っています。総合受付で「チャレンジシート」を受け取り、館内の展示資料を見ながらクイズに答えるというものです。毎月、異なるテーマで問題が作られていますので、新たな展示資料の発見にもなります。展示資料付近にはチャレンジマークが貼ってあり、何色のマークが貼ってあるかもチェックポイントとなりますので、広い館内でも楽しみながら進めることができます。

また、この「チャレンジ！はくぶつかん」に挑戦するとスタンプカードがもらえます。スタンプが4個たまるごとに素敵な文房具と交換できます。

毎月挑戦して12ヶ月分のスタンプがたまると、3月の来館時に皆勤賞の表彰が行われ、記念品がもらえます。

平成29年度はなんと13人の皆さんが最優秀チャレンジャー（皆勤賞対象者）となりました。

★☆☆おめでとうございます★☆☆

6回目 細越空さん

4回目 伊藤桃子さん 小原碧生さん

3回目 篠田典子さん 篠田怜子さん  
藤原吉治さん

2回目 門間晴貴さん

1回目 大林志間さん 大林萌華さん  
大坊友乃さん 遠山 凜さん  
貫井美結さん 貫井結菜さん

参加は随時自由ですので、最優秀チャレンジャー目指して博物館を探検してみませんか？



※最優秀チャレンジャーの皆さんの表彰風景は館内2階のミニプラザ掲示板にてご紹介させていただいております（許可をいただいたもののみ）。

## ■活動レポート

## 博学連携プロジェクト～平館高等学校とのハンズオン資料の製作～

学芸第三課 近藤 良子

岩手県立博物館は、平成27年度より博学連携の一環として岩手県立平館高等学校家政科学科の皆さんとの共同プロジェクトを実施しています。

これまでに体験学習室で実際に着用して利用することができる「鹿鳴館ドレス」、「女学生装束」を製作していただきました。今年度は、「雫石あねご装束」（上衣）の製作に取り組みました。

プロジェクトメンバーである平館高等学校家政科学科課題研究被服班（指導：去石伸子教諭）の生徒さん6名が「雫石あねご装束」の大サイズ1着・中サイズ1着・小サイズ2着の製作にあたりました。

平成30年1月25日（木）の平館高等学校家政科学科「課題研究発表会」にて、これまでの取り組みの発表につづき、完



成品が披露されました。

<生徒さんの感想>

・子ども用は小さい分、細かな部分を縫うのが大変でしたが、来館した多くの子どもさんたちに着てほしいと思います。（田村海岬さん）



完成品の「雫石あねご装束」上衣

※プロジェクト4年目となる今年度は「雫石あねご装束」の股引の製作にあたります。

・浴衣と縫い方が共通している部分が多くあると感じました。たくさんの方に着ていただき、岩手の文化にふれてもらいたいです。（井上いおりさん）



# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション〈平成30年6月1日～平成30年9月30日〉

### お知らせ

#### ●夏の臨時開館

平成30年7月30日(月)、8月6日(月)、8月13日(月)は臨時開館します。

#### ●夏季の開館時間の延長

平成30年8月6日(月)～8月19日(日)は17時30分まで開館します。(1時間の延長)

#### ●資料整理に伴う休館

平成30年9月1日(土)～平成30年9月10日(月)は資料整理のため休館します。

#### ●敬老の日 65歳以上入館無料

平成30年9月17日(月・敬老の日)は、65歳以上の方は無料で入館できます。

### 展覧会

#### ●第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」

平成30年6月2日(土)～平成30年8月19日(日) 2階 特別展示室

多様な岩手のクモとその驚きの生態、クモにまつわる伝承など、わかればきっと好きになる魅力を紹介します。

※詳細はp.4～5展覧会案内記事をご覧ください。

#### ◆県博日曜講座

講座 当日受付 聴講無料 13:30～15:00

6月10日(日)「わかればきっと好きになる・クモ」

講師：渡辺修二(当館学芸員)

#### ◆展示解説会(中学生～一般向け)

14:30～15:30 特別展示室 大人は要入館料

6月17日(日)、7月14日(土)、8月18日(土)

#### ◆子ども展示解説会(小学生対象)

10:15～10:45 特別展示室 高校生以下無料

7月28日(土)、7月30日(月・臨時開館)、8月11日(土)

#### ◆ミニ観察会「クモを見つけよう! in岩手県博」

11:00～12:00 参加無料・博物館入口集合・雨天中止

6月17日(日)、7月28日(土)、7月30日(月・臨時開館)、8月11日(土)、8月18日(土)

#### ●テーマ展「祈りにみる動物たち」

平成30年9月22日(土)～平成30年11月25日(日) 2階 特別展示室

※詳細は次号で紹介いたします。

### 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

\*展覧会関連講座

\*6月10日「わかればきっと好きになる・クモ」 渡辺修二(当館学芸員)

\*6月24日「あなたもハエトリグモを探したくなる!」

須黒達巳氏(慶応義塾幼稚舎教諭)

7月8日「武家の装い～甲冑・刀・刀装具～」 原田祐参(当館学芸員)

7月22日「小さな大敵「文化財害虫」」 丸山浩治(当館学芸員)

8月12日「落とし穴の用途～狩猟用以外に何が?～」

濱田宏(当館学芸課長)

8月26日「発掘から見えてきた古代たたら製鉄」 小山内透(当館学芸課長)

9月23日「早池峰山の植物を二ホンジカから守れるか」

高橋裕史氏(森林総研)・鈴木まほろ(当館学芸員)

(9月23日は16:00まで)

### 観察会・見学会(事前申込制)

#### ●第75回地質観察会「白亜紀の岩泉を訪ねて」

平成30年7月1日(日)10:00～15:00 於、岩泉町現地集合・解散

岩泉の白亜紀の変動の痕跡を訪ねます。また、平成28年台風10号の洪水の様子についても学びたいと思います。

講 師：山岸千人(当館学芸員)

定 員：20名(小学校高学年以上、要保護者承諾、岩泉町民は別途募集)※要事前申込。定員充足しだい締切

参加費：100円(障害保険料)

募集期間：5月30日(水)～6月8日(金)

#### ●第75回自然観察会「クモを見つけよう! in小鹿公園」

平成30年7月1日(日)10:00～15:00

於、小鹿公園(盛岡市三ツ割深沢)現地集合・解散  
博物館の近所・小鹿公園で自然観察。こんな身近なところにも色々なクモや昆虫がいっぱい!

講 師：渡辺修二(当館学芸員)

定 員：20名(小学生以上)※要事前申込。定員充足しだい締切

参加費：100円(傷害保険料)

募集期間：6月1日(金)～6月15日(金)

#### ◆ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料をさぐる～

平成30年8月10日(金)・11日(土・祝)17:30～18:30

ふだんは見られない、閉館後の展示室を学芸員といっしょに歩いて新しい発見をしてみませんか?

定 員：30名(小学生～中学生とその保護者)懐中電灯を各自で準備  
※要事前申込(先着順・定員充足しだい締切)

募集期間：7月25日(水)～7月31日(火)

申込方法：9:30～16:30の開館時に来館、または電話にて。

### 週末の催し

◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします。

毎月第1土曜日 13:30～15:00前後 講堂 当日受付 視聴無料

6月2日 企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」関連

クモの糸&自然なぜなに?生きもの特集(小学生～一般向け/83分)

①クモの糸(原作:芥川龍之介)、②自然なぜなに?DVD図鑑シリーズア  
リ・ホタル・クワガタムシ

7月7日 夏休み直前アニメスペシャル(105分/小学生～一般向け)

虹色はたる～永遠の夏休み～(原作:川口雅幸(岩手県出身))

交通事故で父親を亡くしたユウタは、父親との思い出の場所である山奥のダムで不思議な老人と出会って…。

8月4日 夏休み映画(95分/小学生～一般向け)

①オズの魔法使い ②みにくいアヒルの子

③不思議の国のアリス ④ダンボ

#### ◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

6月9日・10日・16日・17日 テーマ:水

7月7日・8日・14日・15日・16日 テーマ:虫

8月11日・12日・13日・18日・19日 テーマ:海

9月15日・16日・17日・22日・23日・24日 テーマ:秋

#### ◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30 幼児(保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料(材料費代/プログラムごとに異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

6月	3日 チャグチャグ馬コづくり 10日 草花のそめもの 17日 スライムであそぼう 24日 石から絵の具を作ろう	8月	5日 ちぎり絵のうちわ 12日 こはくの玉づくり 19日 土器づくり 26日 まが玉アクセサリー
7月	1日 カラフルクモづくり 8日 化石のレプリカ 15日 お絵かきはんこ 22日 ミニさんさだいこ 29日 天然石のフォトフレーム	9月	2日 お休み 9日 お休み 16日 お月見かざり 23日 手づくり万華鏡 30日 アンモナイトの消しゴムづくり

※7月22日、7月29日、8月5日は午前[10:00～11:30]と午後[13:00～14:30]の2回あります。

### 定時解説

平日～土曜日13:30～14:30/日曜日10:30～11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

※夏休み期間中(7月21日～8月26日)※ただし7月22日と29日と8月5日をのぞくは「子ども向け定時解説」を行います。

### 平成30年度の利用案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休 館 日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

資料整理日(9月1日～9月10日)

年末年始(12月29日～1月3日)

※7月30日(月)、8月6日(月)、8月13日(月)は臨時開館

■入 館 料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

( )内は20名以上の団体割引料金

※9月17日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第157号 平成30年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---